

高齢者が主役になる地域づくり ケアネットワーク講演会

11月8日(日)洞爺湖万世閣でとうやこケアネットワーク講演会が開催されました。

当日は町民や医療・介護等の事業所で働く専門職165名が参加。登別市のNPO法人ゆめみ〜る山田正幸副理事長から、地域の住民が主体となって行っている地域食堂やサロンについての講演の他、軽体操や各地域で行っている集いの場の報告が行われました。また「病気や障がいの有無に関係なく自分が望む場所で安心して暮らし続ける地域」に必要な活動についてグループで意見交換を行い、「おしゃべりする・気軽に

集まれる場が地域に必要な」などたくさんのアイデアが話し合われました。



高齢者が主役となってすすめている地域づくりの実践例を話す山田正幸さん

認知症サポーター養成講座が11月10日、洞爺中学校(加賀



職員が高齢者役となつて行なわれた声掛けの実践学習

谷真由美校長)で道徳の授業の一環として行われ、全校生徒34人が、認知症についての理解を深めました。

同講座では、健康福祉課と健康福祉センターの職員4人が講師となり、洞爺湖町の認知症高齢者の実情や接し方について説明を受けた後、4グループに分かれて、職員が高齢者役となり、声掛けの実践を行いました。

平尾渚羽さん(3年)は「認知症についてよくわかりました。今日学んだことをこれから生かしていきたい」と話しました。

洞爺中全校生徒 認知症について学ぶ

町内の小・中学生が一堂に会し、楽器演奏や合唱を披露する第22回洞爺湖



迫力ある歌声を披露した3中学合同合唱

子ども芸術文化フェスティバル(同実行委員会主催)が、11月13日洞爺湖文化センターで開催されました。

参加した学校は、虻田小学校、洞爺湖温泉小学校、とうや小学校、虻田中学校、洞爺湖温泉中学校、洞爺中学校の6校です。

フェスティバルは虻田小学校3年生の合唱でスタート。2部構成で行われたプログラムの最後には、3校の中学生合同で「大切なもの」「マイバラード」の2曲が歌われ、最後のマイバラードでは小学生も加わり、会場全体に歌声を響かせました。

元気な歌声会場に響く 子ども芸術文化フェスティバル

地場の産品を安価で提供 町民感謝祭

洞爺湖町が主催して、町内で生産されたおいしい農産品や



盛り上がった餅まき

加工品を安価で提供する町民感謝祭が、11月14日、役場駐車場で開催されました。

当日は海が荒れて、恒例のホタテの販売は中止となりましたが、道の駅あぶた、道の駅とうや、とうや水の駅などが出店し、大和いもやキャベツなどの新鮮野菜や塩サケなどの魚介類など地場産品が並べられました。

その他海鮮汁の無料提供や餅まきなども行われ、訪れた住民らを楽しませました。

まちのわだい

